

8 新町天満宮 新町



菅原道真公を祀った神社の宮号で、昭和50年4月に宮腰酒造三代目ご主人イトさんが、大宰府天満宮より分身を拝受、昭和51年に御社を現在の地に建設、昭和54年1月新町天満講を設立、新町町内会や商店など多くの信者の支援で、毎年地元新町の大勢の人達が天神様の2月24日宵宮祭、25日当り祭に、我が子の学問上達、合格祈願を「のぼり」に託し奉納、現在もお祭りを行っている。

9 金沢町変則六差路 (通称三方口)金沢町2丁目

新津一新発田線、金沢町の道路と柄目木への道路、小路など2本が交差した変則六差路で非常に珍しい交差点です。昔は道路の脇は農業用水の堀でしたが、その用水路も埋め立てられ道路巾が広くなり、車両の往来も多くなり事故もたまに有ります。信号機設置を関係機関に要請しましたが名案が無いのが現状です、皆様の良い知恵がありましたらお知らせ下さい。



10 天理教(新津分教会) 金沢町1

天理教は中山みきを教主として、天保9年(1838)10月26日、奈良県天理市で立教し、新潟県には明治18年に伝わり明治30年には天理教新津分教会が本町3丁目にて設立。明治41年6月29日の新津大火で、その年現在の金沢町に移転する。祭神は宇宙と人類の創造主「親神天理王の命」陽氣ぐらし世界の実現を基本教義とする。



11 金沢町夜泣き地蔵 金沢町3丁目

金沢町3丁目石津鉄哉氏の屋敷内に地蔵尊がお堂に祀られている、石津家二代目のとき一人の六十六部(霊場に納経する行脚の僧)が地蔵尊を背負って通りがかり、同家に暫く滞留したが、ある時新湯へ試合に行くと言って地蔵をよくよく頼み、一度目は帰って来たが二度目の試合にはとうとう帰らぬ人となった、地蔵はそのまま石津家に祀られたという。その家では前から夜泣きをする子供が居て困っていました、ところが地蔵様が来られてからは子供の夜泣きがピタリと止まりました、その話が広がり人々から夜泣き地蔵と言われる様になりました。



12 神明宮 金沢町



主神は「天照皇大神」、配神には建御名方神、大山祇神社、倉稲魂神。慶長3年(1598)3月創立西金沢の産土神となり。享保6年(1721)9月及び安政2年(1855)8月社殿再建、嘉永13年(1860)8月創立の十二神社を明治35年5月諏訪神社へ合祀し、更に諏訪神社を明治40年5月神明宮当社へ合祀、拝殿及び長床は明治41年6月の建立、その後平成8年11月拝殿及び長床を再建。祭礼は4月8日宵宮祭、8月26日宵宮祭27日の両日は山車と神楽が町内に繰り出し町内あげての祭りです。

13 蓮入寺跡(区史跡) 柄目木

蓮入寺跡には普通の角柱形墓塔があり、塔身の正面には「南無阿彌陀仏」と六文字の名号が楷書で刻まれている。江戸初期の承徳2年(1653)浄土真宗の寺院として創建されたが宝暦10年(1760年)色々な事情から水原へ移り、寺号を無為信寺と改めた。文化6年(1809年)無為信寺二世名僧徳龍が建てた蓮入寺五尊と先住の霊を弔う供養塔二基が残っている。



14 真柄家の大櫓(天然記念物市指定) 柄目木

真柄家の入口にある櫓は平成5年1月、市指定天然記念物の指定を受けました。幹胸回りで7.8m樹齢約800年と言われている巨木です。幹の内部は空洞があり現在では以前に比べ威勢が無くなった様に思います。



15 新津製油所発祥の地の碑 滝谷

この碑は5メートルを超す花崗岩の石碑がある。明治から昭和初期にかけて製油界の覇者と言われた「新津恒吉」の偉業をたたえたものである。このころ新津油田は、熊沢、柄目木方面大噴油が相次ぎ全盛時代を迎えていた。明治33年から昭和3年頃まで操業、その後新潟市山の下に進出し大製油所を建設し移った。



16 能代川の桜並木 能代川左岸

能代川左岸の桜並木は、昭和58年7月能代川通水を記念して桜の木を新津口ターミナルクラブが植樹した桜並木であり、金沢町3丁目金盛橋より上流島崎大橋の間200本と能代川分流記念公園の桜を併せると260本にもなる大桜並木であり、花見時期ともなれば見事で見事では余りないので花見時期ともなれば大勢の人が見物に来ております。今では桜の木は直径も50センチを優にこえる大木となり見事です。



17 柄目木夜泣き地蔵 柄目木

柄目木集落中程に曾我理容院横に地蔵尊が安置されている、尊像はかなり摩耗している。子供の夜泣きによくきくと言われております。此の地蔵尊は飯柳の雨乞地蔵と同じく、柄目木部落の雨乞行事にも一役買った事があると言う。また一時期柄目木に五合庵が建てられた時、そこに移されたが廃庵後は再び今の場所に戻った。此の地蔵尊は初め近くの本田家がお守りしていたが、今は曾我理容院でお守りしている。



18 八幡宮 柄目木



祭神は「菅田別尊」、天和9年(1689)真柄仁兵衛貞方が付近開拓の為、八幡様を産土神にして、宝永7年(1710)及び安政5年(1858)の再度社殿を再建し、享保10年(1725)3月領主溝口直治管内巡視の際に参拝したと伝えられている、また彫刻は非常に手の込んだ物です。境内に稲荷神社(倉稲魂神)も祀っております、八幡宮と同年代に創建したが、慶応3年(1867)11月再建しております。

19 本寿院 草水

宗派は法華宗門流で本尊は宗祖尊定ノ南無妙法蓮華經、当院は正徳4年(1714)長岡本妙寺の尊い遺品を祀る建物として創立した。昭和15年古志郡山本村から剃髪し妙顕尼なり当院の開基に努力し、当院を草水に移し宗教結社法華宗新津布教所を開創し開基となった。また一名、稲荷様の寺とも呼ばれている。



20 浄明寺 飯柳

真宗本願寺派中戸山と称し、本尊は阿彌陀如来で、開山は天文9年(1540)開基了照和尚により信濃の国高井郡(長野県野沢村)に建立し浄明寺と称した、五世養慶和尚が永禄5年(1562)に甲越の乱を避けて高田に移り一時は高田町常敬寺の末寺であったが、その後正保3年(1646)に現在の飯柳に移り建立した後に本派本願寺派末寺となり、享保3年(1718)7月現在の地に再建し現在に至る。本願寺派は寺の数が少ない。



21 神明宮 飯柳

祭神は「天照皇大神」寛永16年(1639)創立、飯柳の産土神にして安政5年(1858)社殿を再建。本社は元来八幡宮と称したが、昭和19年9月社号を変更して八幡神社とした。一時村社に列せられたが終戦後今日に及んだ。神仏習合説時には別当寺は本島の妙蓮寺であったが、明治維新の際関係を断り境内に移住していた修験者が神官となり真柄家の守り神であったらしい。尚稲荷神社は古く諏訪神社でなかったかと思われる。



22 雨乞地蔵 飯柳

近隣に知られた「雨乞地蔵」が安置されている。地蔵尊の由来は定かではないが、「あるとき能代川の upstream から流れてきたものを拾い上げたものである」との言い伝えがある。日照りが続くと、その度に村人は新しく蓮台を作りそこにお地蔵さんを乗せ、鐘をたたきながら金屋にある二の堂まで担いで行き、そしてそこにある堀に雨が降るまでつけておきました。すると不思議なことに早ければ三日、遅くとも七日たつと必ず雨が降ったと言われていました。その後、誰言うともなくこのお地蔵様を「雨乞地蔵」と呼ぶようになった。



23 一ノ堰(史跡) 草水

一ノ堰は天文2年(1533)澤田半右衛門によって創設されたと言う古い用水堰である。能代川の右岸、新津の東部地域には重要な堰であったが、下流に恩恵をもたらしたが、反対に上流の村々では水害が起る障害物でしかなかった。その度上流と下流の住民間で紛争が起きていた。そして400年余りの役目を終えた。今では桜の古木が生い茂る記念公園も併設されております、花見頃にお弁当を持参で花見して下さい。



24 神明神社 草水

祭神は「天照皇大神」元和9年(1623)に真柄仁兵衛貞賢が、臭水発見記念のため臭水村(後の草水(改名))に神明社を創立、草水の産土神として文久2年(1862)に現在の境内に移転し社殿を造営、明治25年に改築、神社の明細帳より漏れており昭和5年1月編入と共に社号の神明宮を神明神社と名称を改めた。



25 煮坪(史跡) 草水

真柄家の祖、仁兵衛貞賢は新発田藩の命を受け、慶長13年(1608)頃領内の開発可能な地を調査しているうち煮坪を発見、江戸時代には越後七不思議の一つになった位です。明治以降石油乱掘のため煮坪は自噴が弱まり、現在は当時の面影は留めていませんが、400年余石油の歴史がここ草水から始まった証しであり、新津に石油の灯をともした原点であり日本の石油史にあっても大切な文化遺産として後世に残すため秋葉区の文化財となっております。

